



	書名	著者名	請求記号
1	非正規・単身・アラフォー女性:「失われた世代」の絶望と希望	雨宮処凛著	367/Am
2	女子の働き方: 男性社会を自由に歩く「自分中心」の仕事術	永田潤子著	366/Na
3	馬鹿ブス貧乏で生きるしかないあなたに愛をこめて書いたので読んでください。	藤森かよこ著	159/Fu
4	LEAN IN(リーン・イン) 女性、仕事、リーダーへの意欲	シェリル・サンドバーグ著、村井章子訳	335/Sa
5	ガール	奥田英朗著	913.6/272
6	幸せな着ぐるみ工場: あたたかいキャラクターを生み続ける女子力の現場	かのうひろみ著	335/Ka
7	職場の問題地図: 「で、どこから変える?」残業だらけ・休めない働き方	沢渡あまね著	336/Sa
8	これからのテレワーク: 新しい時代の働き方の教科書	片桐あい著	336/Ka
9	働き方の哲学: 360度の視点で仕事を考える	村山昇著	366/Mu
10	働き方5.0: これからの世界をつくる仲間たちへ	落合陽一著	007/Oc
11	「超」働き方改革: 四次元の「分ける」戦略	太田肇著	336/Ot
12	働く女子の運命	濱口桂一郎著	366/Ha



非正規・単身・アラフォー女性

「失われた世代」の絶望と希望

タイトルだけ見ると絶望しかないように
感じるけれど、これが意外とそうでもない。
アラフォーには男女関係なく誰もかばるのだし
自ら望んで派遣でいる人もいれば、結婚に
関心がないから単身でいる人もいる。
ただ、非正規で働くというのはどういふことなの？
一生単身でいるならどういふ生活が必要なの？
男女問わず知っておく方がいいことを
教えてくれる本だ。



女子の働き方

著者の永田潤子さんは女性で初めて海上保
安庁の幹部職員となり、26歳で巡視艇「まっぴん」
の船長に就任した、バリキャリで男社会を生き延びて
人です。だからこそ、男性中位のビジネスルールが
多く残る今の社会で、女性ばかりに無理を
働くためのコツを身を持って知ってほしいのです。

目次で興味をひかれる頁、読んでみませんか？



馬鹿 ガス 貧乏 で生きるしかない

あなたに

愛をこめて書いたので読んでください。

「馬鹿 ガス 貧乏」は決して悪口ではないし卑下しているのでもない。容姿でお金ももらえないなら「ガス」だし働かないと生活できないなら「貧乏」だ。だから根柢の深い自信を持つて、自分の足元をしっかりと見てほしい。例えばあなたは「馬鹿」だから、仕事にやりがいとか生きがいと求めなくていい。労働に見合う対価をもらえれば十分だ。



この本は等身大の自分を知らずで済むだけ痛い目を見ずに、「馬鹿 ガス 貧乏」は自分の逆説的価値を知らず生きていくための本なのだ。

LEAN ^{リン}・IN

女性、仕事、リーダーへの意欲
シェリル・サンドバーグ 著

シェリルさんは子供を2人持つ母親であり、フェイスブックのCOOです。タイトルの「リーン・イン」は、世界中で働く女性に対し「一歩踏み出せ」というメッセージを含めてつけられています。社会の中で女性がリーダーになることは少ない現代、本書では、それはなぜなのか、どうすれば変えていけるのか、会社のトップであるシェリルさん自身が疑問を投げかけ、社会や人の意識を変えていこうと訴えかけています。彼女の実体験を伴う数々のメッセージを読んで、今いちど自分の働き方など考え見つけ直すきっかけになればいいなと思います。



ガール (著) 奥田英朗

女性にとって30代は微妙で、色々これからについて考えることが増える年代です。本書は5話からなる短編集で、それぞれ主人公の女性たちが自身の年齢と向き合いながら悩んでもかいて頑張って仕事をしている様が書かれています。物語だけれど、リアルでスピード感のあるとても読みやすい面白い一冊です。



「マニション」が個人的に
オススメだったりします。

幸せな着ぐるみ工場

一働き続けることを諦めなくてよい
職場であり続けたい一本書。

着ぐるみ工場の会社を (著) かのうひろみ
作り上げて、社員の働く環境をより良くする
事を考え行動し続けていく女性経営者の
心温まる一冊です。会社の成り立ちだけで
なく、シングルマザーとしての苦勞から、新し
い旦那様との出会いなど、一人の女性
としての姿も語られています。

この会社で働いてみたいな、と素直に
思いました。変わる状況のなか、いかに
対応していくかそれに順応できるのか、
コロナ禍の今、会社の姿勢として問わ
れていますね。

職場の問題地図

職場で飛びかう次のような言葉。

「時間がない？気合でなんとかして」

「契約が取れない？気持ち弱いからそうなるんだ」

「やり方を教えてほしい？経験とカンでなんとかするって」

気合だけで時間が作り出せるなら、人生楽しみホーダイですし、気持ちだけで契約が取れるなら、その人は超能力者か何かでしょう。現実には気合や気持ちだけで業務が回ってくれることはありません。あったとしても、それは自分ではない、誰かの犠牲の上に成り立っているだけなのです。根性論だけで乗り切れる時代はもう終わりです。これからは、客観的に業務を見つめ、より良い職場を目指しましょう。その足がかりにこちらをどうぞ。

これからのテレワーク

新型コロナウイルスの影響で娯楽はおろか、出勤すらままならない日が続いています。そんな中、新たな勤務体制として、『テレワーク』が推進されています。しかし、今まで経験したことのない勤務に問題は山積みです。『テレワーク』のいろはをこの1冊からしっかり学びましょう！

WORK

360度の視点で仕事を考える

働き方の哲学

村山 昇



社会に出て働く前や、仕事に行き詰まった時に読むと良いんじゃないかと思いました。

哲学というよりは、まず『働く』ということはどういうことか、をいろいろな概念で知るための本です。

(こういうことは 実際働いていけば、だんだんとわかってくるとは思います。)

働くための目的と目標、しっかりと自分の中で分析したい方にも。

見やすいゼジュアルで、頑張って働くぞ！という気になります。

『働き方5.0 これからの世界をつくる仲間たちへ』 落合 陽一 著

若い世代の人のこれからの働き方について書かれています。特に印象に残ったのは、

「これからの若い世代が考えなければいけないのは、『年収1000万円の会社に入ること（入って安心すること）』ではなく、『年収1000万円の価値のある人間になること』』という一文です。自身の市場価値の「最高到達点」をいつと考えるかも大切なことのように。

読んで将来の人生設計と考えるのもよいかもしれません。



「超」働き方改革

— 四次元の「分ける」戦略

太田 肇 著

コロナ禍でテレワークが導入されたけれど、実際は、利用できる人は一部の職種に限られており、それによって生産性の上がった会社は、「分ける」ことがうまくできていたためだと著者はいう。①仕事を分ける ②職場を分ける

③キャリアを分ける ④認識的に分ける

①～④は生産性向上に効果的で、ハウメーなど日本の職場の問題解決にもよいよう。

働く女子の運命 濱口 桂一郎 著

時代劇ともいわれながらも男のビジネス社会を描いたドラマ、半沢直樹は平成に続き、令和でも空前の大ヒットとなった。本書で日本と日本以外の国は雇用システムが違うとあるが、どのように日本独自の社会が成り立って、そこに女子はどのように存在してきたのか、豊富な文獻に基づいてまとめられている。しかし問題解決の糸口は明確になく、女子の運命を嘆きにくるばかりの一冊ではある。90年代が舞台の上司に歯向かうビジネスマンの姿が痛快な夢物語として大受けする2020年なのだから解決の糸口はあるのかもわからない。けれど私たちの生活を一変させたコロナがせめて社会の在り方に変化を残すことを願いたい。



愛知学院大学
歯学・薬学図書館情報センター



コンセプトコーナー 2020年12月～2021年 1月

ナニカに縛られない、これからの時代の働き方改革！